



BRAND BOOK

Introduction	
私たちに見えたもの	3

Mission / Vision	
目指すものと、目指す先の世界	5

Value	
やること、やらないこと	6

Logo Mark	
想いの形	7

Project	
プロジェクトの生まれ方	8

Project	
プロジェクトの育ち方	9

Possibility	
私たちが予想するもの	10

Contact	
共創へ	11

Introduction

私たちに見えたもの

日本の寄付文化を醸成したい

私たちリタワークスのサービスや社会を見渡したとき、
今あるものではそれは達成できないのだと、絶望しました。

0

寄付に対する不安感をもっている

日本には社会貢献をしたいと思っている人は多いですが、
それと同じく「寄付したお金がきちんと使われているのか不安に感じる」と感じている人が多いことも事実です。[※]
多くの壁がある中から、私たちはまずこの感覚を打破することを最初の目標にしました。

Mission / Vision

目指すものと、目指す先の世界

0

Mission

寄付の不安をゼロにする

このミッションを達成することで壁に開く穴からは、
今までに見たことのない景色が広がると信じています。

Vision

豊かさのための寄付をする社会

0の向こう側には、「善意や余裕がある人だけの行為」ではなく、「自分の人生に関係すること」として寄付をする社会があるはずです。
「寄付＝豊かさの追求」として日常に溶け込んでいる状態を目指します。

やること

困ったときは協力する

共創やパートナーシップを重視し、問題が発生した際も仲間として支え合う。

データに基づき、判断する

寄付者の感情や人気に左右されない正しい寄付を支援するため、データの可視化と標準化を通じて、安心して判断できる正確な情報を提供します。

小さな声にも光を当てる

すべてのNPOが公平に評価される仕組みを提供し、これまで寄付が届きにくかった団体にもアクセスする機会を創出します。

やらないこと

いかなるものとも敵対しない

社会課題解決という共通目標のため、対立構造を生まず、あくまで「つなぐ」姿勢を貫く。

情報を操作・編集しない

特定団体への寄付を誘導するようなデータの提示はせず、公平性と透明性を保つため、すべてのデータをフラットに公開します。

偏見や主観で評価をつけない

知名度や人気に左右されず、データや数値、標準化を一貫した基準とすることで、寄付者自身が公平に判断できる状態を保ちます。

0の向こうに行くために

この途方もない目標を達成するために必要な価値観を考えました。

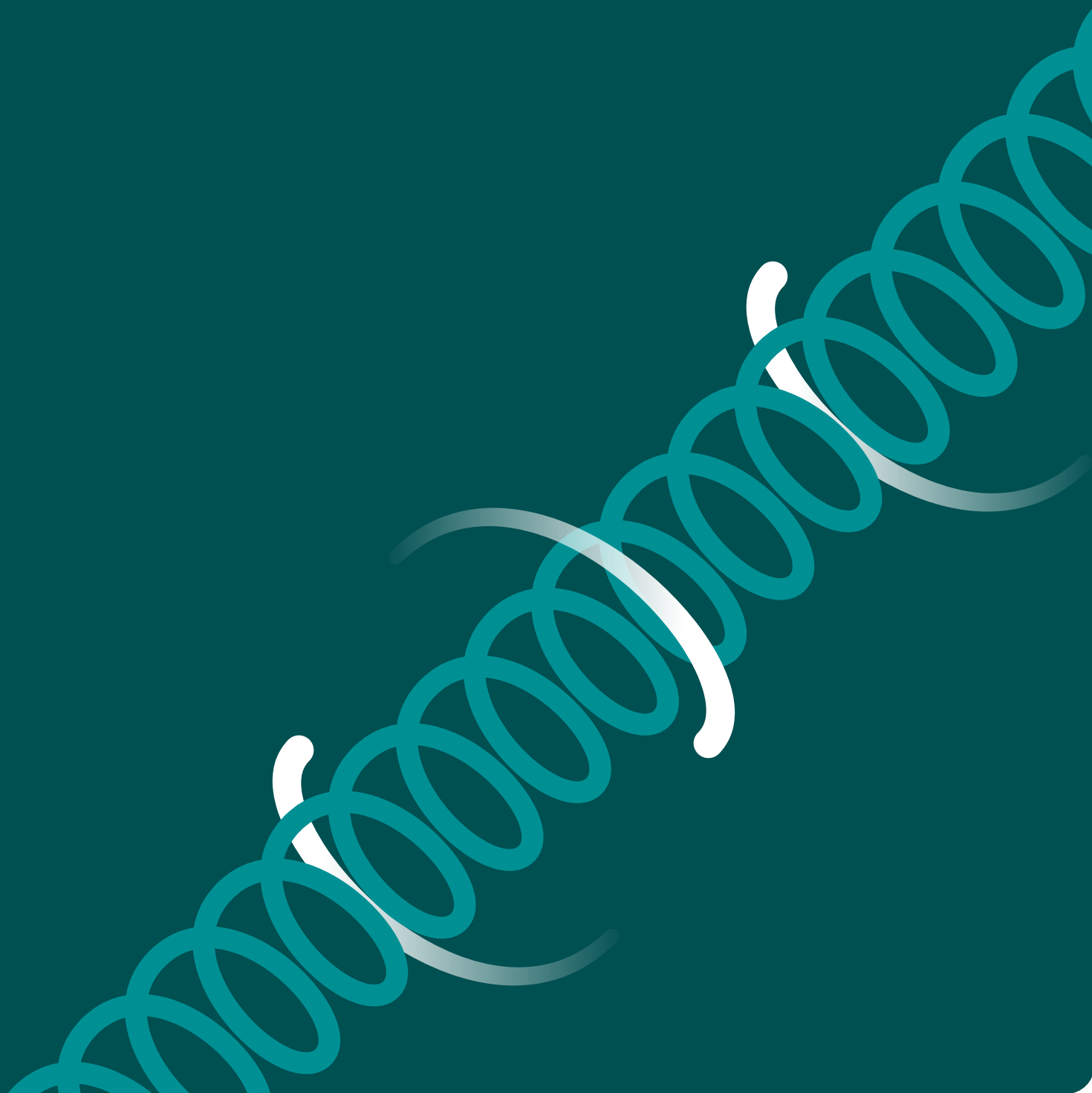
Logo Mark

想いの形



多くの人を
巻き込みながら、
大きくうねる
流れをつくりたい

0の向こう側に行くために、
孤独に進むのではなく、
ちょっとした変化だけを起こすのではなく、
多くの人を巻き込み、社会の意識を変えるような
大きくうねる流れをつくるという想いを
mieruwaのロゴマークに込めました。



Project

プロジェクトの生まれ方

共感と 協力で生まれる プロジェクト

mieruwaの事業は、利益の追求からは始まりません。

「豊かさとは」をテーマに、知見や技術を持ち寄り、
プロジェクトを生み出します。

Project 1

mieruwa Data Base

NPOの経営情報は、フォーマットなどが明確に規定されておらず、

地域によって確認できる情報が統一されていませんでした。

mieruwa DataBaseは、そのような「見えない不安」をゼロにするため、

NPOの経営情報を、統一フォーマットで簡単に閲覧できることを目指したサービスです。

データ入力には、関西学院大学の石田教授と研究室のみなさまに協力をいただいています。

石田教授が研修されていた～～（研究内容とdatabaseの共感エピソード）

共感と協力で生まれた、第一号のプロジェクトです。

関西学院大学
人間福祉学部 社会起業学科
教授

石田 祐 氏

石田祐研究室のみなさま



Project

プロジェクトの育ち方

つながりからひろがる、 新しいフィールド

mieruwaから生まれるプロジェクト、
そして、プロジェクトから生まれるさらなるプロジェクトが
0を突破するためのフィールドとなっていくはずです。



Possibility

私たちが予想するもの

「ゼロ」の先にある 人々の視座

「寄付の不安」無きあとの 「寄付の意味」

NPOの活動が見える化し、不安がなくなると同時に、
寄付者は社会について深く認知ようになります。
「同情」や「応援」を意味していた寄付は、
「寄付者自身の人生」を意味するようになる、
そこまでの可能性があると思っています。

「占有」で得られない 「贈与」による豊かさの証明

「消費による豊かさ」ではなく、
「分けることによる豊かさ」に気づく可能性を
寄付は持っていると思います。
人々の視座に大きく影響を与える、
「豊かさ」をテーマにしたmieruwaのプロジェクトを
共に作りませんか。

0

まずはお話ししよう

「寄付の不安をゼロにする」ための対話をさせてください。

- 寄付システムに関するアイデア
- 社会課題に関するアイデア
- ○○のアイデア
- ○○のアイデア

お問い合わせフォーム

QR